

国道 342 号祭時大橋が開通！！

～ 岩手・宮城内陸地震による被災からの完全復旧 ～

県南広域振興局土木部 一関土木センター

平成 20 年 6 月 14 日に発生した「平成 20 年岩手・宮城内陸地震」で落橋した国道 342 号祭時大橋が架け替えられ平成 22 年 12 月 18 日(土)正午に開通しました。

「平成 20 年岩手・宮城内陸地震」は、岩手県内陸南部を震源とするマグニチュード 7.2、県内観測史上最大の震度 6 強を記録し、県内では 2 名が死亡、37 名が重軽傷を負ったほか、317 箇所、約 78 億円もの公共土木被害が発生しました。国道 342 号祭時大橋は、激しい地震動により発生した岩盤滑りにより落橋するという、橋梁被害の中でも最も深刻で、過去に類を見ない甚大な被害を受けました。

県では、被災から 5 ヶ月後の平成 20 年 11 月 30 日に仮橋を開通し、平成 21 年 5 月には祭時大橋の下部工工事に着手、平成 22 年 1 月からは上部工工事に着手しました。当初、祭時大橋は平成 23 年 3 月の開通を予定していましたが、工事関係者の尽力により、工期が大幅に短縮され、予定より 3 ヶ月早く開通させることができました。今回の祭時大橋の開通により、平成 22 年 5 月 30 日に開通した須川～真湯間を含めて、震災発生からわずか 2 年半で、全ての公共土木施設の完全復旧を果たしました。甚大な被害を受けた大規模地震からの完全復旧により、これまで以上に地域間交流の促進や、観光の活性化が期待されます。

祭時大橋
H22.12.18 開通



被災した祭時大橋



完成した祭時大橋

【開通式】

開通式典は、午前10時30分から祭時大橋の一関市内側で、関係者約40名が出席して行われ、駆けつけた多くの市民が見守る中、テープカットや『祭時被災地展望の丘』に設置した災害モニュメントの除幕などを行い、開通を祝いました。その後、祭時大橋の被災により最も影響を受けた地元の御一家の家族四代による渡り初めが賑々しく行われました。

なお、今回の祭時大橋の完成に併せ、今後の防災教育などに大きな役割を果たすことを目的として、新しい祭時大橋の袂に落橋した祭時大橋を一望できる『祭時被災地展望の丘』を整備し、撤去した橋桁の一部を展示していますので、本地域にお越しの際には、是非ご覧ください。また、祭時大橋の桁の一部は、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災で倒壊した阪神高速道路の構造物を一般公開している神戸市の「震災資料保管庫」にも、展示されています。

開通式のテープカット



祭時被災地展望の丘



【一関市道矢櫃線昇仙橋の復旧】

一関市が管理する市道矢櫃線昇仙橋は、磐井川に架かる現在の国道342号の昇仙橋が完成するまでの間利用されていた橋で、矢櫃ダム周辺の景観と調和した美しいデザインの鉄筋コンクリート造のアーチ橋でしたが、平成20年岩手・宮城内陸地震により落橋しました。

その時の様子について、当時、現地で高欄塗装工事をしていた2名の作業員は「突然の大きな揺れに慌てて左岸に飛び移り、振り返った時には大きな地鳴りとともに、橋は約20m下の磐井川に落下していった。危機一髪で難を逃れた。」と、地震の凄まじさと脅威を語っていました。

その後、一関市により災害復旧工事が進められ、地震発生からちょうど2年半となる平成22年12月14日に、以前と同じ構造の鉄筋コンクリートアーチ橋の新しい昇仙橋が開通しました。

新しい昇仙橋は、矢櫃ダム周辺の四季折々の景観を楽しむスポットとして、多くの方々に親しまれていくことでしょう。

落橋した昇仙橋



完成した新しい昇仙橋

